多世代交流型
木育モデル事業

事業実施報告書

子どもたちの
「やってみたい」を
応援します

みやぎこども
プロジェクト

- 株式会社 杜設計
- 株式会社 コンパス・ファクトリー
- AsoVi-Va みやぎ
- みや・だいく

R8.10.26

家をつくる・暮らしをつくる

mori house

杜設計



空間をつくる・ワクワクをつくる

木はもっと 人のそばに居たい

コンパス・ファクトリー



自分たちの未来をつくる

子どもたち

木を知り尽くし、確かな技術・経験を持ち、
現場を"綺麗に"出来る本物の職人さんが集まった、
地元・宮城の暮らしづくりの集団





屋内あそび場をつくる・みんなが家族という未来をつくる

AsoVi-Vaみやぎ



《問題》

▼仙台宮城の若者の流出傾向が続く

▼職人さんがどんどん減っていく

▼仙台特有の「ものづくりの魅力」が失われていってしまう

《課題》

五感を刺激するリアル体験とものづくりに焦点を当てた
『仙台の魅力再発見プログラム』を早期に構築・実践し、
仙台宮城からの若者の流出に歯止めをかけるとともに
流入の促進と定住化を加速させるべき

《解決策》

子どもや若者が「仙台にずっと住み続けたい」と思える
新たな文化や魅力を創造する

おもちゃやものづくりを通して
子どもも大人もみんなが笑顔になれる
『仙台らしい木育プログラム』の構築を目指しました

木育を通じて導かれる子どもたちの成長

好奇心
自発的な行動

＋

思いやり
社会性

＋

創意工夫
やり抜く力

＋

主体性
達成感

＝

健やかな成長

子どもたちが「木」に魅力と愛着を感じ「自然の大切さ」を理解する
さまざまな「木の体験」を通して楽しみながら学び成長する

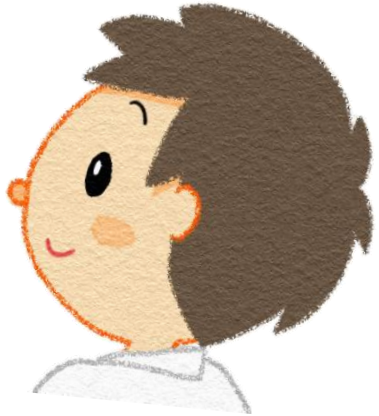
地域を知り地域の人とつながることで「故郷への思い」が深まり
自分で調べたり誰かに話したりするきっかけになる

子どもたちの「想像力」と「コミュニケーションカ」が育まれ
子どもたち自身で互いにアイデアを出し合いチャレンジできる
課題をひとつひとつクリアすることで達成感が得られ自信になる

子どもたちが主体的に活動することで自立心や責任感が芽生え
「自分たちの未来」を自分たちで創っていく積極的な行動につながる

子どもたちが「未来づくり」の主役になる





課題の解決へ『私たちのミッション』

「木の魅力」に
気付いてもらう



「木育の輪」を
広げる



ものづくりの
「職人技」を伝える



みやぎこども
プロジェクト

目指すべき姿『私たちの願い』

みんなが家族のようにつながり、



「仙台・宮城」を
もっと好きになってほしい







事業スケジュール

（R7.4～R8.3）

- 済 8月　移動もくいく広場 in AER　8/3(日)
- 済 10月　杜のもくいく学校 in 馬場小　10/6(月)、10/9(木)
- 済 10月　移動もくいく広場 in 秋保市民センター　10/19(日)
- 済 11月　杜のもくいく学校 in 秋保小　11/17(月)
- 済 1月　秋保地区地域活動のつどい に参加　1/31(土)
- 済 2月　上棟式 in 特別養護老人ホーム泉クラシック　2/21(土)



移動もくいく広場 とは？

木やおもちゃの専門家が遊びをプロデュース♪

『木のおもちゃひろば』

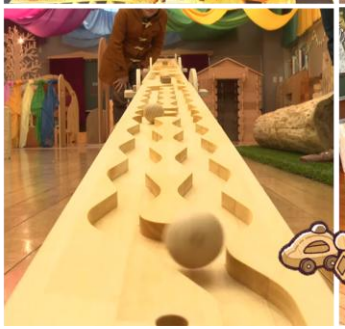














世界中から集めた知育玩具や
懐かしいおもちゃ･ゲームなど
子どもも大人も一緒になって
楽しめるイベントです

遊びながら木の温もりと人の温かさを
五感で感じることができます

8月3日 AER5階多目的ホールで実施　356名ご来場
10月19日 秋保市民センターで実施　100名ご来場

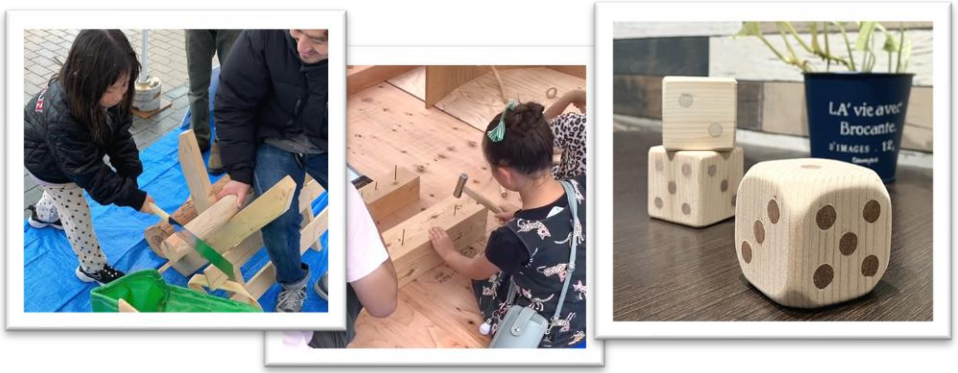
杜のもくいく学校 とは？



図画工作の授業にプロの大工さんが登場！

馬場小学校 木育教室で、楽しみながら「木の温もり」と「人の温かさ」を学ぼう！

10月6日(月) 1～3年生 6名
『コロコロころりん』
～木のサイコロで“すごろく”をしよう～



10月9日(木) 4～6年生 7名
『私の秘密基地』
～橋でつなげて“住みたいまち”をつくろう～



秋保小学校でも
実施しました！
（11/17(月)4年生12名）

老人ホームで上棟式？

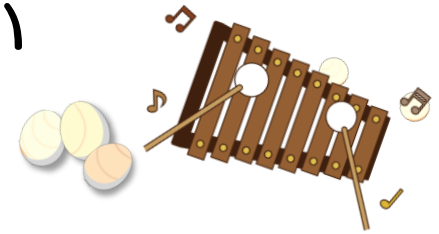


「こども大工さん」がデビュー！

お年寄りの目の前で「上棟式」を行いました

2月21日 特別養護老人ホーム泉クラシックで実施　入居者様16名ご参加

端材で作った木琴で一緒に歌をうたい
子どもたちが作った木のたまごを
お年寄りひとりひとりに手渡します



「誰かの役に立てる喜び」と「生きる喜び」にあふれます♪









《体制・役割》

みやぎこども
プロジェクト

申請団体

◆**杜設計 山本**	事業設計、上棟式の企画運営
◆**コンパス･ファクトリー 板橋**	ネイチャーゾーンの空間づくり
◆**コンパス･ファクトリー 畔野**	産学官民連携、移動もくいく広場と杜のもくいく学校の企画運営

アドバイザー

◆**AsoVi-Vaみやぎ 中川**	子育て目線の御意見番、情報の発信

協力団体

◆**みや･だいく**	杜のもくいく学校の先生、大工道具の使い方と職人技の伝承
◇株式会社ユーロバス	木のおもちゃなどグッド・トイをふんだんに使った遊び場の提供
◇みやぎグッド・トイ委員会	木のおもちゃや昔のおもちゃをはじめとした遊びの専門家
◇秋保総合支所まちづくり推進課	馬場・秋保エリアの地域団体との連携調整
◇教育委員会学校規模適正化推進室	廃校または閉校予定施設の利活用で現地準備および住民との橋渡し
◇特別養護老人ホーム泉クラシック	交流ホールにて上棟式を披露

《協働の意義》

☆**子どもや若者が主役の「みんなに優しい未来づくり」を協働の相乗効果で全力サポート**

☆**五感を刺激し親子でワクワクする機会の提供により「仙台の魅力づくり」に貢献**

《R7事業の目標と結果報告》

〈目標〉「木のおもちゃひろば＆職業体験」をひとりでも多くの方にお届けする

〈結果〉赤ちゃんからご年配、学生など、老若男女が集い交流する体験型イベントを
AERと秋保の2か所で開催し、2日間で500名を超える方々に

- **おもちゃを通じた親子の愛着形成**
- **職人さんや学生さんとのふれあい**
- **想像力をかきたてる造形あそび**
- **感性を刺激するアート作品展**

をご体感いただいた。





《8月3日 AER》
356名ご来場
＋ボランティア52名

《10月19日 秋保》
100名ご来場
＋ボランティア6名

都心部と郊外で実施したことで、それぞれのニーズやお金の掛け方など
地域の特性に合った木育プログラムの展開方法を探ることができた。

〈目標〉仙台の魅力再発見のための「木育アンケート」を実施・分析し関係各所に報告する

〈結果〉「木のおもちゃひろば＆職業体験」開催にあわせ、ボランティアスタッフとして参加した学生に「木育アンケート」を記述式にて実施。
木育の普及がもたらす効果について

「仙台宮城の魅力度向上」
「目指したい自分自身の将来像」
「暮らしたい社会の理想像」



という視点で、**若者の想いやニーズを分析。関連する6か所の団体・個人へ報告済。**
引き続き、**子育て応援や、子ども若者の地元への愛着づくりに結び付けていく。**

【未来づくりに関するアンケートを実施：若者から見た木育の可能性】　（一部抜粋）

■「木のおもちゃひろば in AER」 開催日：2025年8月3日(日)
■ご来場者数：356名
■ボランティアスタッフ：52名（大学・専門34名、高校・高専7名、中学3名、社会人等8名）
■アンケートの実施および回答期間：2025年8月18日～9月3日
■アンケート回答数：42名に依頼し21名より回答

共通するのは
『つながり』

		【イベントについて】	【木育と未来づくりについて】			【遊び場について】
		Q1. 今回参加してみて、イベントの内容ややり方など何でもいいので感じたことをそのまま教えてください。	**Q2.「木育の推進」は、次のa,b,cそれぞれに対してどのような効果があると思いますか。あるいは効果は薄いと思いますか。**			**Q3. 数ある遊び場の中で「わざわざ西公園まで行ってそこを利用する」ためには、どんな施設だったら「みんなで行こう！」となりますか？ ご自身がもっと小さかった頃を思い出しながら、その施設をいつかメインで利用することになる当事者の立場としてお考え下さい。**
			〈a.仙台市や宮城県の魅力度向上〉	**〈b.目指したい自分自身の将来像〉**	**〈c.自分が暮らしたい社会の理想像〉**	
こうめ	宮城教育大学 芸術体育・生活系専攻 家庭科コース 3年	子どもたちの生き生きとした表情や遊びに没頭する姿を間近で見ることができた貴重な経験でした。会場設営の持ち場はあっても、体験活動中の持ち場が自由な点が、自らも様々な遊びに触れることができるため良かった。	杜の都仙台としてぴったりなイベントであり、仙台外からの注目も集まりやすいと思った。	子どもたちは**木に関わる仕事**を知る機会があまりないので、**職人さんとお話しすることで将来の選択肢のひとつ**にもなり得ると思った。	都市化が進む中で、**自然と触れ合い、自然の良さに気付き、環境配慮へのきっかけ**になると思った。	私自身は幼い頃、川崎にある「みちのく湖畔公園」や「仙台文学館」などに家族で出かけていました。中でもみちのく湖畔公園にある大きなトランポリンと水遊び場が大好きでした。また、文学館では本を借りていたのですが、定期的に開催される本の読み聞かせが好きでした。近年の夏は暑さが厳しく、保護者の方が子どもたちを外遊びに連れていくことがなかなか難しいと思います。ですので、私自身が幼い頃に公園でしていた外遊びを屋内でできる施設として、保護者側にも子ども側にも配慮のある優しい場所になればその施設に行く価値が生まれると思います。具体的には、「休憩」が大切だと考えます。子どもが遊んでいるすぐそばで保護者が見守りながら休める椅子やスペースがあったり、家族みんなで休む時はカフェや小さい規模のフードコートのようなスペースがあればいいと思います。
あいる	東北学院大学 経営学部経営学科 1年	家族の交流の場になるだけでなく、昔ながらの遊びであったり、**職業体験**があるのが良いなと思いました。特に職場体験は普段あまり馴染みのない職だったので、私自身も勉強になりましたし、**子供達もあれが楽しかったなあと記憶に残れば将来の選択肢が増えるきっかけになるのでは**ないかなと思いました。	木育のイベントが増えれば、仙台ではこんなイベントが特徴的でたくさんやってるという一つの魅力ができるのかなと思いますでも、ただ木育をしているからといって魅力の向上に繋がるかはどうなんだろうなあと思うので、木育のイベントの知名度を上げることで、お祭りのようなイメージで家族連れなどが集まると思います。	今回のボランティアを通してですが、人見知りではあるものの人と接することが好きなんだなあと感じることができました。将来の仕事に直接関わりがなくても、いろんな人を見て話してこんな風に感じられる人間になりたいと思えるイベントだったと思います。	これもボランティアを通してになりますが、子供からお年寄りまで世代を超えた交流ができる社会になればいいなと感じました。木育を通して地域との関わりが増えてそういった社会になる効果があるのかなと思います。	飽きずに遊べるようにおもちゃやブースがたくさんある場所、親が子供の目を離してしまっても安心な場所、親同士の交流もできる場所（not強制）、そこでしか遊べないようなおもちゃやブースがある、**キッザニア**がすごく楽しそうなのでそういうおままごとをするスペースがあっても良いと思う、宿題だったり勉強するスペースがある場所、など
あかね	宮城教育大学 芸術体育・生活系教育専攻 生活系教育コース家庭科 3年	なつかしいおもちゃや仕掛けが面白いおもちゃがたくさんあって、自分自身も楽しめました。そして、子どもたちが楽しく遊ぶ様子に癒されました。	自然と触れ合える場所として注目されると思う。	わかりません。	**自然物の良さ**を多くの人が理解することで、持続可能な生活に繋がっていくと思う。	普段の生活では体験できないような遊びができる施設。
たまちゃん	宮城学院女子大学 教育学部教育学科 1年	子ども達が自分の遊びたいおもちゃを自由に発想を膨らませて遊ぶ姿は見ていてとてすごく楽しかったです。子どもならではの発想ばかりで、自由な発想を引き出すことの出来るおもちゃは魅力的だなと感じました。	小さなお子さんがいる家庭にとって、とても魅力的なものであり、参加してみたいと思える企画だと感じました。宮城県に行って子ども達を遊ばせたいと魅力を感じる方はいると思います。	私は将来、教育関係の仕事に就きたいと思っていますが、**子どもの自由な発想を引き出せるような**教育を目指したいと思いました。	子ども達がインターネットばかりを使うのではなく、おもちゃなどを通して笑顔が多い社会になってほしいです。	子どもの頃の私だったら、自分からみて「大きい！」 と感じるものに魅力を感じると思います。保護者の目線からみれば、安全に遊べる事が分かれば、行かせたいと思うと思います。
ゆった	東北福祉大学 総合福祉学部 4年	子どもたちがおもちゃと向き合う純粋な姿を見ることが出来た。おもちゃを通して自分と子どもとの距離感が急速に縮まっていく様子を観察できた。	**自然と共に生活している**というアピールにつながる。	子どもたちと関わる仕事に就きたいと感じさせる。	芸術に囲まれた暮らしをしたいと感じさせる。	大人から子どもまで楽しめるよう、おもちゃだけでなく彫刻や銅像などの芸術作品も配置すると行きたいと感じさせる。
かんちゃん	東北学院大学 法学部法律学科 1年	子供たちが普段触れることのない珍しいおもちゃや体験を通して楽しむことができ、とても良い取り組みで、やり方がわからないおもちゃでも、子供たちが試行錯誤しながら遊ぶ姿が見られ、考える力を育む良い機会になっていると感じました。一方で、説明書などはもう少しわかりやすく工夫されると、さらに楽しみやすいと思いました。	自然と触れ合える子供の遊び場が市内に整備されていることは、子育てのしやすさにつながり、仙台市や宮城県の魅力度向上にも効果があると感じました。	効果があると思います。私自身も**様々な職業の方々と関わる機会をいただき将来を考える上での視野が広がった**と感じています。	多世代での触れ合いが生まれることによって、地域コミュニティがより強固になり安心して暮らせる社会の実現につながると考えます。効果があると思います。	親子で一緒に楽しむことができ、半日から一日中過ごせるような施設を利用したいと考えます。子供を安心して遊ばせられる環境であることに加えて、**新鮮さや斬新さがあり、さらに子供にとって学びのある体験が得られる施設**が理想だと思います。

《R7事業の目標と結果報告》

〈目標〉「木育教室」を通じて学校・児童への支援とともに子どもへの関わり方を探る

〈結果〉仙台市教育委員会学校規模適正化推進室と協力しながら、
馬場小学校（全学年11名出席）と秋保小学校（第4学年9名出席）で**木育教室を開催。**

- **自分のまわりにある木でできているもの**
- **木とほかの材料とのちがい**
- **目、耳、鼻、口、手で感じること**
- **切って、打って、磨いて、並べて**
- **木は生きている**

10/6、10/9　馬場小学校
11/17　秋保小学校

「気付く」ことと「感性を養う」ことに重点を置いた内容で実施。
はじめて会った大人ともしっかり会話しながら工作する積極的な姿が見られた。







《R7事業の目標と結果報告》

〈目標〉子どもたちには「誰かの役に立てる喜び」を実感してもらい、老人ホームに入居されているおじいちゃんおばあちゃんたちには「生きる喜び」を実感してもらう

〈結果〉“こども大工さん”６名（年長2名、小学2年3名、小学5年1名）と、サポート2名（小5中1各1名）計8名の子どもが参加。入居者様は16名がご参加。
3人の大工さんに習いながら順序よく木の家を組み立てていき、**上棟式を実施。**

2月21日 特別養護老人ホーム泉クラシック

《親御さんからのアンケートより（抜粋）》

「入居者の方々と緊張しながらも丁寧に接している娘の姿に成長を感じました」
「学校では難しいこうした感性や想像力を刺激する体験や、家族以外の方々と関わりができるイベントはとても貴重だと思います」
「大人の私も子どもたちの活動から木のすばらしさや自然の力を感じました」
「会場にあたたかい一体感が生まれたのが何より印象的でした」







使用経費と事業収支

おもちゃレンタル一式（AERと秋保の2日分）	770,000円
会場使用料（中小企業活性化センターと秋保市民センター）	176,460円
人件費・報償費（おもちゃ専門家、職業体験講師、ボランティア等）	706,937円
旅費（駐車場代）	21,700円
消耗品費（スタッフエプロン、画用紙等）	96,606円
印刷代（チラシ、アンケート）	31,114円
その他（材料代および加工代、入場者損害保険料）	102,761円
支出合計	**1,905,578円**

事業収入（木のおもちゃひろば入場料、AERと秋保の合計）	**140,700円**
仙台市助成額	**1,500,000円**
自己資金	**264,878円**
収入合計	**1,905,578円**

審査会意見への対応状況

＜附帯意見＞
●「仙台の魅力アンケート」を実施する際には、木育とどのように関連するかを明らかにし、木育がどのように仙台の魅力に寄与するのかがわかる調査を行ってください。

学生向け木育アンケートの質問と回答から、**仙台市が木育を推進することよって**
・自然と触れ合える遊び場の整備は子育てのしやすさにつながる
・自然と街が調和した杜の都のアピールになる
・木を通して学びの場が広がる
・伝統的な木工や職人技を子どもや若い世代が体験的に理解できれば地域文化を未来に残せる
・お祭りのように家族の楽しみが増える
・子育てをする親どうしのコミュニティ構築や生活しやすい環境になる
というような形で**仙台市の魅力がますます向上していく**という学生らの意見を数多く得ることができました。

〈その他参考意見〉
●本事業の活動拠点とする秋保地域に加え、貴団体の所在地周辺でもこの取り組みを波及できるよう検討してください。

仙台を語るうえで欠かせない秋保地域に着目し、今期の活動の要所とさせていただきました。
今後は活動エリアに関わらず一つ一つ事例を積み重ねていくことで、**子どもたちや若者たちと一緒に「木育」を通じた仙台宮城の魅力づくり、未来づくりをしていきたい**と考えております。

〈その他参考意見〉
●初年度は無料であっても、それ以降は材料費や入場料を取るなど、事業を継続・自走化できる仕組み作りを検討してください。

ご意見をいただいたことで初年度より早速「おもちゃひろば」の入場料をいただく形をとらせていただきましたが、その金額に関しては市街地からのアクセスなど多くの要素が絡み合うため、**「事業の持続性」に向けて都度検討し試行錯誤が必要である**と痛感しました。（AER：ひとり300円または1家族1000円、秋保：ひとり500円 で実施）

令和8年度の取り組み



飲食店さんたちとの
コラボ

**異業種連携で
まちづくり**



職人さんの技術で

**地域の
イベントを
サポート**



自然素材を活かした
理想の暮らし

木のマンションリノベ

令和8年度の取り組み



多世代での『ふれあい』が
共助のキッカケに

防災訓練に関心を
持ってもらうための
減災プログラム

みやぎこども
プロジェクト

子どもにとって「遊び」は生きることそのもの